



まずは丸亀港のシンボルを訪ねに行きましょう。JR丸亀駅から北へ数分歩くと、新堀湊の海際に立つ大きな青銅の灯籠が見えてきます。江戸時代、金毘羅五街道の一つ・丸亀街道の起点として、船でやってくる参拝客を迎えた「太助灯籠」です。第二次大戦中の金属供出を免れ、補修と復元を経て、今も変わらず港を見守っています。

対岸の京極大橋に立って灯籠の辺りを見下ろすと、港越しに丸亀城や飯野山まで一望できる眺めが広がります。丸亀港は瀬戸内の海上交通の要所。これほど高い視界は望めなかった江戸時代、船から見えた灯籠の火は、旅人の心にどんな光をともしたのでしょうか。ここからはさぬき浜街道に沿って西へ。中津大橋を超えてすぐ北側の「中津万象園」に立ち寄ってみましょう。丸亀藩京極家2代目藩主・京極高豊公が築庭した、池泉回遊式の名庭園です。京極家の故郷・近江の絶景を写した典雅な空間の一角に、茶室「観潮楼」



丸亀港の眺め。太助灯籠の向こうに京極大橋

江戸の海景色に 思いをはせて

金毘羅街道の出発点の一つ・丸亀港からスタートする今回のエリアは、歴史が薫る海辺の散歩道。かつての海景色に江戸の面影を探り、イメージーションを広げてみませんか。



エリア 丸亀・多度津

水はなぜかここだけです。発見の経緯はわかりませんが、水道もない昔は真水が生活に欠かせないものですから、作庭に当たって水を重視したことは確か」と、同園の西口武彦さん。現在も貴重な水脈を絶やさないよう、園内の滝水などに利用しています。

江戸の面影に別れを告げて、さらに西へ。多度津町に入ると、海岸寺の辺りでJRの線路と並走が始まります。海水浴場もあるこのエリアは、海辺を走る鉄道の姿が楽しめます（右上写真）。颯爽と駆け抜ける特急の姿は、江戸から現代へ、時の流れを教えてくださいませんか。



観潮楼（右）と母屋。母屋の前に船着き場の階段が



真水の湧く井戸の説明をしてくれた西口さん

中津万象園 ☎0877-23-6326

中津万象園

検索

瀬戸内海は 先人から預かった財産

港、ふれあいのまち城乾 会長 奥村素一さん

丸亀でも海辺のエリア・福島町で生まれ育ち、瀬戸内海の移り変わりを毎日眺めて育ちました。父が海運業を営み、私も競艇選手だった経験があって、海は常に身近にありましたから、海を大切にしようという思いは特に強い。今は年3回、観光客を迎える環境づくりも兼ねて、23自治会を挙げて丸亀駅～港周辺の清掃活動に取り組んでいます。若者の参加をもっと増やしたいところです。



さぬき瀬戸クリーンリレー



サギはよく目にしていますが、去年はウの姿を見かけて驚きました。これも海が回復しつつあるしるしでしょう。瀬戸の景観は先人から預かった宝。まちが一丸となって海を守る気持ちを大切にしていきたい。